

震災がれき

三重県受け入れ調整

セメント製品 いなべの工場で

東日本大震災で発生したがれきの広域処理で、三重県は受け入れに向けて、同県いなべ市藤原町の太平洋セメント藤原工場で処理する方向で、同社といなべ市など調整に入っている。三者が合意すれば、県はいなべ市と協力して地元住民に説明し理解を求める。

セメント大手の太平洋セメントで同市と近隣の同洋セメント（本社東 県陸前高田市のがれき京）は大船渡工場（岩を昨年六月から処理。手県大船渡市）のプラ

出る灰を石灰石などと混合・焼成してセメントを生産し、放射線測定で安全性を確認した上で出荷している。三年度の藤原工場でも受け入れが可能と判断

し、調整に乗り出した。搬入するがれきの量や種類は未定だが大船渡工場と同様、セメントとして製品化するとみられる。

（近鉄富田―西藤原）が直接乗り入れる。被災地のがれきの搬送方法として、県は全行程を鉄道による陸路か、海路で四日市港（三重県四日市市）まで運び、陸揚げ後に鉄道で搬入するルート想定



している。
本紙の取材に、日沖靖いなべ市長は「県が正式に表明すれば地元住民に説明する。理解が得られれば被災地のために受け入れたい」と前向きな姿勢を示した。太平洋セメントの広報担当者は「正式な要請は受けていないの電所（愛知県碧南市）の敷地内に自前の焼却炉と最終処分場を建設する方向で、中電側と調整中。焼却施設を持つ県内の市町村にも協力を呼び掛けている。中部電力碧南火力発電所（愛知県碧南市）の敷地内に自前の焼却炉と最終処分場を建設する方向で、中電側と調整中。焼却施設を持つ県内の市町村にも協力を呼び掛けている。」



がれきの受け入れで県など調整している太平洋セメント藤原工場。20日、三重県いなべ市藤原町で、本社ヘリ「まなづる」から（伊藤遼撮影）